

住まいの飾り職人

**ATOM**  
LIVINTECH

# ATOM LIVINTECH IR NEWS

第64期中間報告書  
平成29年7月1日～平成29年12月31日



## 経営理念

「住まいの飾り職人」が  
つくり出す独創的な商品で、  
社会の発展に貢献します

## 社訓

「独り歩きのできる商品づくり」

## 社是

「創意・誠実・進取」



## 社名の由来

創業者は江戸指物（鏡台、茶箆筒、長火鉢等）の金具職人、即ち繊細な装飾と微妙な細工の技術を要する鋳職でした。

社訓は、創業者の遺した言葉に基づくものであります。

「独り歩きのできる商品」とは、販売に際して、巧言令色や誇大な表現を添えずとも「ひと目でその価値が相手に伝わる商品」を指します。

当社の社是は、ご覧の通りですが、企画開発を旨とする企業として「創意・進取」は元より、独り歩きのできる商品であればこそ、販売に際して「誠実」が貫き得ると考えております。

また社名の冒頭に冠した「アトム」は設立以来の商標であり、内装金物の分野で、業歴相応の認知と浸透を得ております。

以下に続く「リビングテック」には、ご説明の要もない「リビングテック」の他に、まさしく「技術に生きる＝リブ・イン・テック」の意味が籠められており、併もその技術とは、当社がファブレスメーカーであるだけに、単なるハードウェアのみならず、ソフトウェアをも包含する「ノウハウのメーカー」であり続けたいという思いを表しております。

## 株主の皆様へ

# 第64期第2四半期累計期間の 業績について、ご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当社第64期中間報告書をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

当第2四半期累計期間（中間期）におきましては、当社が関連する住宅市場は、低水準にある住宅ローン金利や被災地着工の進展に加え、省エネ住宅補助金制度など政府による各種住宅取得支援政策を背景に、新設住宅着工戸数は緩やかな持ち直しを示したものの、その一方で、人工不足や建築資材の値上がりを背景に住宅価格は高止まりとなり、工事の遅延、マンション着工の調整なども重石となって、本格的な市場の回復には未だ至らない水準で推移いたしました。

こうした状況のもとで、当社は当期を最終年度とする「第9次中期経営計画（第62～64期）」において掲げた、「自己改革に基づく新たなステージでの飛躍」とのスローガンのもと、内装金物全般に目を向けた「裾野の広い商品開発と新たな営業戦略の推進」を基本方針に掲げ、住宅関連産業における企画開発型企業として、より現場主義に徹した商品開発を目指し、機能性と利便性を向上させた市場ニーズに応える「ものづくり」を推進してまいりました。また、活動を本格化した「セールスプロモーションチーム」を軸に、変革期を迎えた金物業界に一石を投げ、全方位のお客様に対する積極的な営業活動に最大の努力を傾注し、販売費や一般管理費の圧縮など調整かつ管理可能な諸施策を講じつつ、さまざまな課題に取り組んでまいりました。

その結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高53億55百万円（前年同期比0.2%増）、営業利益3億54百万円（前年同期比11.5%増）、経常利益3億65百万円（前年同期比8.5%増）、四半期純利益2億28百万円（前年同期比7.9%増）となりました。

当社におきましては、「第9次中期経営計画」に基づき、企画開発型企業として新技術の開発、新商品の開発に取り組むとともに、ソフトクローズ関連商品はもとより、全商品の裾野を拡大すべく注力してまいります。また、変革期を迎えた金物業界において、積極的な営業展開を推進して周辺の事業領域と販路の拡大に努め、引き続き「新たなステージでの飛躍」に向けた取り組みを強化してまいります。

平成30年3月



代表取締役社長 高橋 良一

## ものづくりと営業の両面で新たな体制づくりを進めるとともに、持続的な成長を遂げるための世代交代を推進いたしました。

### 第64期中間期の業績について

**金物業界の変革期を迎えた厳しい市場環境の中で、着実に前進するための体制づくりが奏功いたしました。**

前期における当社が関連する住宅市場は、贈与税非課税枠を利用した相続対策に支えられた貸家着工戸数の増加に加え、政府による住宅取得支援政策の効果もあいまって、好調のうちに推移しました。しかしながら当期に入り、相続対策による貸家着工の動きは鈍くなり、一部地域においては供給過多といった状況も見受けられるようになってまいりました。また、変革期を迎えた金物業界では、後継者不足に加え、建材メーカーが金具のついた建具を現場に直接納入する比率が高くなってきたこともあり、零細な金物店においては事業の継続を断念するところも出るなど、厳しい状況に置かれております。一方、住宅価格が高止まりする中にありながらも、オリンピックに向けたホテルなど宿泊施設の建築・改装ラッシュを迎え、これまでの需要期、閑散期の区別が判然としなくなるなど、従来の経験則が当てはまらない状況にもなってまいりました。当然のことながら、激動する住宅関連市場において、金物業界自体も、住まいにかかわる建具の流通も、さらに変化せざるを得ないでしょうし、今まさに、その変わり目に直面していると考えております。

こうした状況に対する、当社の戦略別取り組みについてお話しいたします。

商品戦略についてですが、当中間期においてセールスプロモーションチーム（SPチーム）をはじめとする営業担当者が、需要家のお客様から直接ご意見やご要望をお聞きし、これを商品化する事例が急速に拡大いたしました。前期に実施した営業

担当者を支援する部門の、垣根を取り払った開発体制づくりが功を奏したと考えております。「裾野の広い商品開発」については、未だ目に見える進展にまではいたっておりませんが、ソフトクローズ関連商品に限ればこれまで以上に裾野が広がってきております。こうした点でいえば、現在あるお客様のニーズを取りこぼすことなく、着実にビジネスへとつなげていく取り組みを強化したことにより、売上総利益率が向上しているものと考えております。

市場戦略については、「秋の内覧会」「春の新作発表会」といった当社が独自に展開する年2回のセールスプロモーション活動に加え、アトムCSタワーに開設した[LIVIN' ZONE]を活用することで、より具体的な商談が可能となり、開発案件が急増するなど大きな進展を図ることができました。とりわけ、新設した[LIVIN' ZONE]が好評を博したことを受け、下期に予定されている「春の新作発表会」に向けて、保育施設や介護施設など非住宅部門を対象に、当社商品を実際にご覧いただきながら、ビジネスに直結する商談ができる[LIVIN' ZONE II]の開設準備を進めているところです。

情報システム戦略においては、基幹システムとなる統合型パッケージのバージョンアップを継続的に行い、業務効率と使い勝手の向上に取り組んでまいりました。さらに、対外的な活動としては、スマートフォンの飛躍的な普及を受け、施工現場において設置方法や取り付け手順などが確認できるコンテンツを動画で提供するなど、当社ホームページの大幅なリニューアルと最適化を行いました。また、当社の情報発信基地としての役割を担うアトムCSタワーは、年間来館者数が過去最高となる1万2000人を突破し、開館10周年を迎えて、その存在感をしっかりとアピールすることができました。

こうした取り組みの結果、厳しさの増した当中間期の市場環境を前提にしていえば、微増収ながらも、着実に利益を確保することができたと評価いたしております。

### 中長期的視点からの取り組みについて

**第9次中期経営計画の最終年度にあたり、持続的発展の原動力となる組織の若返りに取り組んでまいります。**

当期が第9次中期経営計画の最終年度にあたるわけですが、この間、営業戦略面ではSPチームを軸に、金物業界の変革期に対応した積極的な営業展開を行う一方、商品戦略の面からは開発部と営業設計グループの垣根を取り払い、新たな開発体制づくりに向けた基盤整備に取り組んでまいりました。こうした取り組みによって、当中間期の業績に示されるように、市場環境が厳しい中でも着実に収益を確保する道筋をつけることができました。第9次中期経営計画の最終年度にあたる当期では、中長期的視点から、新たな体制を支え、持続的発展を可能にする原動力を確保するため、世代交代による組織の若返りを図ってまいります。このため、当中間期においては意識的に若手を登用するとともに、女性役職者を増やすなど、第10次中期経営計画の冒頭からダイナミックなスタートが切れるよう準備を進めているところです。今後は、創業以来、培ってきた当社の価値観や行動規範といったものを彼等がいかに身につけ、発展させていくかが課題となってまいります。

また、前期において新規市場の開拓と価格競争力を強化する観点から、上海阿童木建材商貿有限公司に続き、ベトナム・ホーチミン市に現地法人を設立し、現地協力工場の開拓と東南アジア市場での販売活動に着手いたしました。こうした海外での取り組みに加え、本社サイドでも、現地生産された商品の日本国内での販売支援を行ってきた海外事業推進グループを中心に、新たな「ものづくり」の確立と価格競争力の強化を目指しております。こうした取り組みを進めることで、近い将来には取手や引手などを始め、ベーシックな商品については海外生産が主力になっていくと思われれます。

### 株主の皆様へのメッセージ

**株主の皆様とのコミュニケーションを活性化し、株主利益の向上に努めてまいります。**

当社では、より多くの投資家の皆様へ、当社の存在意義と事業内容をご理解いただくため、ホームページを通じたタイムリーな情報開示、毎年夏に開催される「日経IR・投資フェア」への出展など、投資家や株主の皆様との密接なコミュニケーションに努めてまいりました。こうした取り組みの一環として、今年4月開催予定の「春の新作発表会」を機にアトムCSタワー8階に「IRフロア」を開設する準備を進めております。また、昨年夏の「日経IR・投資フェア」では、動画に加えて高性能スピーカーで音声を流し、当社の魅力を体感していただくことができたのではないのでしょうか。これからも当社は、株主の皆様とのコミュニケーションを深める取り組みを進めてまいります。

株主の皆様を大切に当社は、安定的な経営基盤の確保と株主利益の向上に努めてまいりました。なお、当期におきましては、安定的な経営基盤を確保する観点から、西日本市場の強化と天変地異によるリスク分散を図るため、営業拠点の増強に取り組んでまいります。また、株主総会でもご要望の多かった株主優待の導入については、現在、積極的に検討を重ねております。

株主の皆様への配当でございますが、第9次中期経営計画でも「利益水準のいかんに関わらず、最低でも1株当たり年間25円の配当を維持する」ことを目標に掲げておりますが、当中間期の配当金については業績を勘案して1株当たり15円とさせていただきます。期末配当金についても1株当たり15円を予定いたしております。また配当金に関連して、当社は来期の上期に創業115周年、来期の下期にアトムブランド誕生65周年、その半期後には法人改組65周年を迎えようとしています。これまで当社は、10年を節目に周年記念配当を実施してまいりましたが、日頃よりの株主の皆様のご支援にお応えするため、今後は5年を節目に記念配当を行っていきたくと考えております。今後も当社は、全社一丸となって業績と株主利益の向上に努めてまいります。株主の皆様におかれましては、引き続き当社の経営方針ならびに経営政策に対する、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 「2017 秋の内覧会」を開催いたしました。

2017年10月、お客様に当社の商品をご紹介します。商品化にあたってさまざまなご意見やご要望をお伺いする「秋の内覧会」を、大阪の「アトム住まいの金物ギャラリー大阪(10月12~14日)」と、東京の「アトムCSタワー(10月19~21日)」で開催いたしました。今回の「内覧会」では、生活スタイルの変化にフレキシブルに対応した商品として、上吊式から下荷重式まで品揃え豊富なソフトクローズ引戸、シンクロ連動引戸や折戸金具などの施工例をご覧くださいました。東京会場では、住宅の間取りをイメージした「LIVIN' ZONE」を設置し、実際の住空間に近い状態で展示を行ったほか、高齢者の老健施設の居室や幼稚園・保育園などの園舎の室内をイメージした「非住宅エリア」の展示も行いました。

### TOKYO アトムCSタワー



### OSAKA アトム住まいの金物ギャラリー大阪



### アウトセット引戸錠 NEW

お部屋や収納の引戸を指1本でらくらく施錠、小さなお子様による開閉をストップ。

室内でも室外からでも、指でプッシュするだけで、スムーズに施錠や解錠ができます。手掛かりや表示部も大きいので、引き違い戸の両面仕様にも最適です。取付位置を高くすることで、小さなお子様による引戸の開放を防止することができます。



### 感震くん3 NEW

揺れているときだけ扉をロックし、食器の飛散を防ぐ「感震くん3」にバージョンアップ。

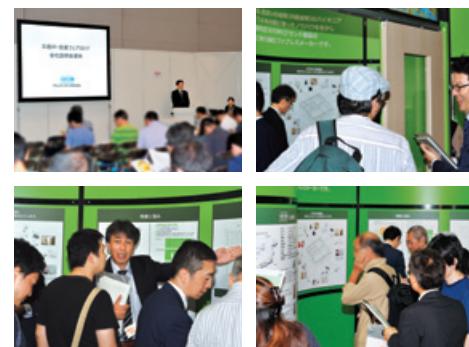
地震の際、キッチンや食器棚の扉をロックし、食器やグラスなどの収納品の飛び出しや落下を防止します。今回のバージョンアップでは、地震が起きて揺れているときだけ内蔵した鋼球が動いてロックが掛かり、揺れがおさまると鋼球が元の位置に戻って自然にロックが解除されるようになりました。



### 3連引戸ダブルオープン NEW

セーフティストッパーとフランス落としの組み合わせで間仕切りの自由度がアップ。

従来の3連引戸の場合、戸先側の扉からの出入りに限られていました。今回、真ん中の扉を固定することで、戸尻側からの出入りも可能なダブルオープンになりました。これにより、広い間口を「間仕切る」ことや「開放」することが、引戸を開閉するだけの簡単な操作で実現できます。



## 株主・投資家の皆様とのコミュニケーションを活性化するため、「日経IR・投資フェア2017」に出展いたしました。

当社では、日頃から株主や投資家の皆様とのコミュニケーションを活性化すべく、当社ホームページの「株主・投資家向け情報サイト(<https://www.atomlt.com/ir/>)」での情報提供をはじめ、アトムCSタワー内に「IRコーナー」を設置するなど、積極的なIR活動を展開してまいりました。こうした取り組みの一環として、当社の認知度や知名度の向上を目指し、2017年8月25、26日の両日、東京ビッグサイトで開催された「日経IR・投資フェア2017」に出展いたしました。今回、展示ブースでは、映像と音声によって暮らしと密接に関わる当社の事業内容や強みをご紹介させていただきました。

これまで、アトムCSタワー内に「IRコーナー」を設置し、株主や投資家の皆様とふれあう機会を設けてまいりましたが、本年4月、アトムCSタワー8階に、当社の歴史から現在に至るまでの歩みを俯瞰しながら、当社の事業内容をよりよくご理解いただくための「IRフロア」を開設することにいたしました。今後とも当社では、株主や投資家の皆様とのコミュニケーションを活性化しつつ、当社のファンづくりを推進するとともに、さまざまな機会をとらえて積極的な情報発信に努めてまいります。

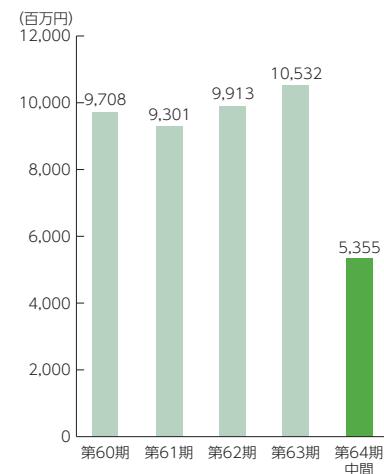
## 「株主・投資家情報サイト」をご活用ください。

当社ホームページでは、株主・投資家の皆様に、動画による社長インタビューをはじめ、経営計画、業績の概要、決算短信、四半期報告書など、盛りだくさんの内容で情報提供を行っております。当社をよりよくご理解いただくため、是非当社の「株主・投資家情報サイト」をご活用ください。

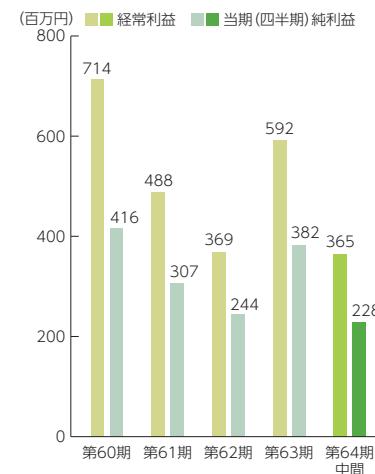
<https://www.atomlt.com/ir/>



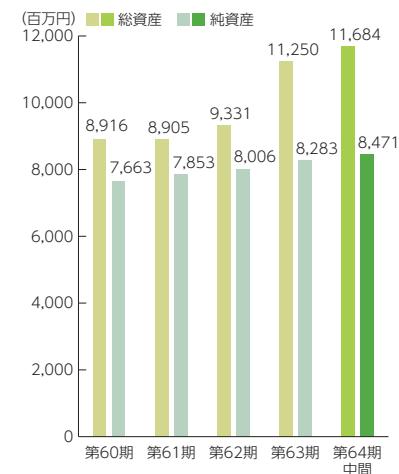
## ● 売上高



## ● 経常利益／当期(四半期)純利益



## ● 総資産／純資産



## ● 主要経営指標

	第60期	第61期	第62期	第63期	第64期中間
売上高営業利益率 (%)	7.0	4.8	3.2	5.4	6.6
総資本営業利益率 [ROA] (%)	7.8	5.0	3.5	5.6	3.1
自己資本利益率 [ROE] (%)	5.6	4.0	3.1	4.7	2.7
流動比率 (%)	596.0	743.0	576.0	289.4	272.7
固定比率 (%)	47.4	44.2	44.2	43.9	45.6
自己資本比率 (%)	85.9	88.2	85.8	73.6	72.5
1株当たり純資産額 (円)	1,920.8	1,968.4	2,006.7	2,076.1	2,123.3
1株当たり当期(四半期)純利益 (円)	104.3	77.1	61.2	95.8	57.4
1株当たり(中間)配当額 (円)	30.00	25.00	25.00	30.00	15.00
配当性向 (%)	28.8	32.4	40.8	31.3	26.2

単位：千円 (千円未満切り捨て)

科目	期別	前第2四半期累計期間 (自平成28年7月1日 至平成28年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年7月1日 至平成29年12月31日)	前期 (自平成28年7月1日 至平成29年6月30日)
売上高		5,343,499	5,355,249	10,532,090
売上原価		3,948,309	3,897,235	7,744,260
売上総利益		1,395,189	1,458,014	2,787,829
販売費及び一般管理費		1,077,683	1,104,000	2,215,984
<b>営業利益</b>		<b>317,505</b>	<b>354,013</b>	<b>571,845</b>
営業外収益		21,650	11,829	23,100
営業外費用		2,303	340	2,522
経常利益		336,852	365,503	592,424
特別利益		—	—	—
特別損失		0	421	32,043
税引前四半期(当期)純利益		336,852	365,081	560,380
法人税、住民税及び事業税		120,881	135,635	173,140
法人税等調整額		3,839	583	4,881
四半期(当期)純利益		212,131	228,862	382,357

四半期  
損益計算書

## Point

## 営業利益

売上高および売上総利益率の増高に伴い売上総利益が増加したことに加え、販売費及び一般管理費の圧縮に努めた結果、前年同期比36百万円の増益となりました。

四半期  
貸借対照表

Point

現金及び預金

増減の詳細につきましては、  
キャッシュ・フロー計算書の  
コメントをご参照ください。

単位：千円（千円未満切り捨て）

科 目	期 別	前 期 (平成29年6月30日現在)	当第2四半期 (平成29年12月31日現在)
<b>(資産の部)</b>			
流動資産			
現金及び預金		4,335,045	4,249,604
受取手形及び売掛金		2,550,038	2,758,272
有価証券		201,520	200,870
商品		467,708	545,288
その他		64,037	67,892
貸倒引当金		△255	△275
流動資産合計		7,618,094	7,821,651
固定資産			
有形固定資産			
建物（純額）		960,666	944,153
工具、器具及び備品（純額）		130,015	178,366
土地		1,027,767	1,027,767
その他（純額）		20,339	7,187
有形固定資産合計		2,138,789	2,157,475
無形固定資産		84,076	71,085
投資その他の資産			
投資有価証券		1,287,617	1,519,969
その他		121,882	114,796
貸倒引当金		△0	△51
投資その他の資産合計		1,409,500	1,634,714
固定資産合計		3,632,366	3,863,275
資産合計		11,250,461	11,684,927

単位：千円（千円未満切り捨て）

科 目	期 別	前 期 (平成29年6月30日現在)	当第2四半期 (平成29年12月31日現在)
<b>(負債の部)</b>			
流動負債			
支払手形及び買掛金		688,836	762,431
電子記録債務		1,577,326	1,742,073
未払法人税等		111,686	145,444
製品補償引当金		65,590	59,061
その他		189,327	158,997
流動負債合計		2,632,767	2,868,009
固定負債			
退職給付引当金		142,769	148,185
役員退職慰労引当金		188,845	194,470
その他		2,600	2,600
固定負債合計		334,215	345,256
負債合計		2,966,983	3,213,265
<b>(純資産の部)</b>			
株主資本			
資本金		300,745	300,745
資本剰余金		273,245	273,245
利益剰余金		7,730,268	7,899,282
自己株式		△64,475	△64,518
株主資本合計		8,239,782	8,408,754
評価・換算差額等			
その他有価証券評価差額金		43,695	62,906
評価・換算差額等合計		43,695	62,906
純資産合計		8,283,478	8,471,661
負債純資産合計		11,250,461	11,684,927

四半期  
キャッシュ・フロー  
計算書

単位：千円（千円未満切り捨て）

科 目	期 別	前第2四半期累計期間 (自平成28年7月1日 至平成28年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年7月1日 至平成29年12月31日)	前 期 (自平成28年7月1日 至平成29年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		69,068	287,418	2,261,534
投資活動によるキャッシュ・フロー		△266,365	△312,926	△451,604
財務活動によるキャッシュ・フロー		△49,826	△59,938	△109,640
現金及び現金同等物に係る換算差額		△3	4	4
現金及び現金同等物の増加(△減少)額		△247,127	△85,441	1,700,293
現金及び現金同等物の期首残高		2,634,751	4,335,045	2,634,751
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高		2,387,624	4,249,604	4,335,045

Point

営業活動によるキャッシュ・フロー

主な資金増加要因は、税引前四半期純利益365百万円、仕入債務の増加額222百万円等によるものです。また主な資金減少要因は、売上債権の増加額208百万円、法人税等の支払額96百万円等によるものです。

Point

投資活動によるキャッシュ・フロー

商品開発の金型など有形固定資産の取得による支出108百万円、投資有価証券の取得による支出201百万円等によるものです。

Point

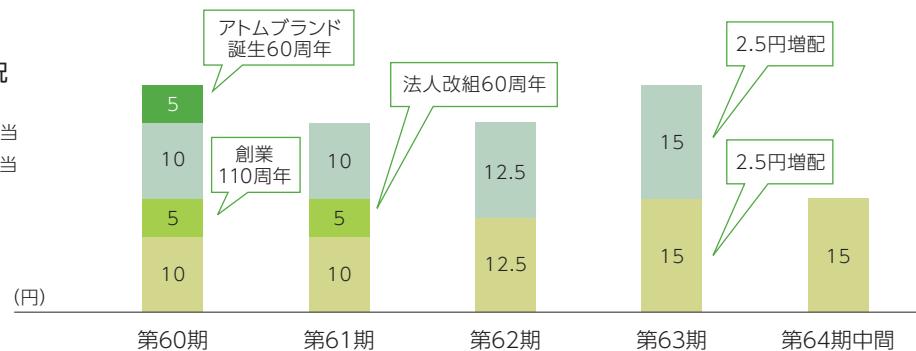
財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払額59百万円等によるものです。

配当状況

● 1株当たり配当状況

- 1株当たり期末記念配当
- 1株当たり中間記念配当
- 1株当たり期末配当
- 1株当たり中間配当



	第60期	第61期	第62期	第63期	第64期中間
1株当たり年間(中間)配当	30	25	25	30	15
配当性向	28.8%	32.4%	40.8%	31.3%	26.2%

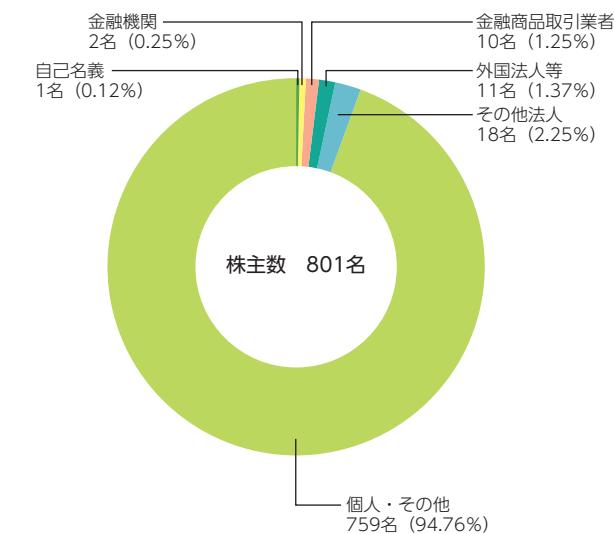
株式の概要

● 株式状況 (平成29年12月31日現在)

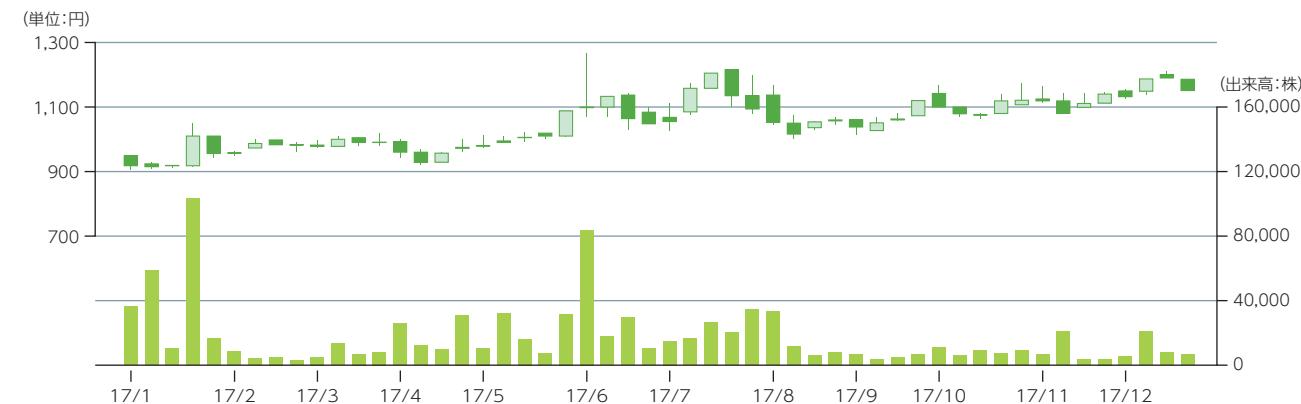
発行可能株式総数 15,420,000株  
 発行済株式の総数 4,105,000株  
 株主数 801名  
 大株主(上位10名)

株 主 名	当社への出資状況	
	持株数(株)	持株比率(%)
高橋不動産株式会社	885,440	21.56
高橋快一郎	500,000	12.18
アトムリビントック取引先持株会	394,100	9.60
高橋良一	290,000	7.06
アトムリビントック従業員持株会	287,760	7.00
高橋壽子	157,000	3.82
大塚李代	127,000	3.09
アトムリビントック株式会社	115,153	2.80
磯川産業株式会社	81,500	1.98
岡崎衛	73,700	1.79

● 株主の所有者別分布状況 (平成29年12月31日現在)



株価および出来高の推移



## 会社概要 (平成29年12月31日現在)

商号	アトムリビングテック株式会社
創業	明治36年
設立	昭和29年10月
事業内容	家具用金物・建具用金物・陳列用金物等、 住まいの金物全般の企画・開発・販売
主要取引銀行	株式会社みずほ銀行 株式会社三菱東京UFJ銀行 株式会社三井住友銀行
従業員数	118名 (嘱託7名・パート16名含まず)

## 役員 (平成29年12月31日現在)

代表取締役社長	高橋良一
取締役副社長	高橋快一郎
取締役	森内弘
取締役	上田嗣夫
取締役	鈴木英光
取締役	伊藤友悌
常勤監査役	金子豊
監査役	輿水洋一
監査役	高島良樹

## 事業所一覧 (平成29年12月31日現在)

<b>本社</b>	〒110-8680 東京都台東区入谷1丁目27番4号	TEL 03-3876-0600
<b>アトムC/Dセンター (商品本部)</b>	〒340-0022 埼玉県草加市瀬崎4丁目15番19号	TEL 048-922-5551
<b>札幌営業所</b>	〒060-0907 北海道札幌市東区北七条東3丁目28番32号 井門札幌東ビル1F	TEL 011-748-3113
<b>前橋営業所</b>	〒371-0805 群馬県前橋市南町3丁目72番7号	TEL 027-223-2651
<b>広島営業所</b>	〒733-0031 広島県広島市西区観音町16番地9	TEL 082-291-4235
<b>アトムCSタワー</b>	〒105-0004 東京都港区新橋4丁目31番5号 アーバンスタイル事業部 ショップ&ショールーム亜吐夢金物館	TEL 03-3437-3673 TEL 03-3437-3440
<b>アトム住まいの金物ギャラリー大阪事業所</b>	〒564-0052 大阪府吹田市広芝町18番地5	TEL 06-6821-7281

## 海外拠点 (平成29年12月31日現在)

子会社: ATOM LIVIN TECH VIETNAM COMPANY LIMITED (ベトナム社会主義共和国) ※平成29年5月18日設立
子会社: 上海阿童木建材商貿有限公司(中華人民共和国)

ホームページも是非ご覧ください。

<https://www.atomlt.com/>

企業・財務情報をはじめ商品情報・オンラインショップなど、  
さまざまなコンテンツをご用意しております。是非ご覧ください。



## シリーズ企画

# アトムCSタワー

最前線 SPECIAL ISSUE



アトムCSタワー1階ギャラリーショップ KANAGU は、生活文化にこだわりを持ち、心豊かな暮らしを求める人々が、職人の技によるインテリアグッズや日用品を実際に手にとって体感し、購入することができるギャラリーショップです。

ギャラリーショップ KANAGUのコンセプトは、モノとモノ、モノとヒト、ヒトとヒトをつなぐ「暮らしの飾り金具」。画一的な大量生産・大量販売・使い捨て的な消費ではなく、職人の魂や技と、生活者の暮らしの美学が出会い、対話するスローショッピングを目指しています。素材感、デザイン、仕上げの隅々にまで職人のこだわりが、ぎゅっと詰まった日用品やインテリアをセレクトしました。職人が紡ぐ「モノ語り」に耳を傾けて、あなたのお気に入りを見つけ、じっくり見つけてください。



## 〈錫の特性×職人の技〉



## すずがみ

suzugami

サイズ

11cm角、13cm角  
18cm角、24cm角

柄

あられ  
さみだれ  
かざはな  
滴  
柳

熟練した職人が錫の板を金槌で叩くことで、美しい模様をつけるだけでなく、繰り返し曲げ伸ばしできる強さを兼ね備えました。曲げたり、折ったり、伸ばしたり。金属でありながら、折り紙のように自由に何度でも形が変えられ、多彩なシーンや用途に応じて使える変幻自在な器です。すずがみには11cm角から24cm角まで4つのサイズがあり、使う人が用途に応じて自由に形を変えられます。たとえば「すずがみ 18cm角」なら、前菜やサラダ、パスタの皿はもちろん、アクセサリートレイや小物入れなどにもお使いいただけます。

その他バリエーションはKANAGUショップのホームページ(<https://kanagu-store.com/>)でご確認ください。



## 特別展示 「KANAGU つなぐ地域『福井』」を開催

「ギャラリーショップ KANAGU」で、「KANAGU つなぐ地域『福井』」と題し、福井県の職人アイテムの展示を行いました。緑豊かな山々と変化に富んだ海岸線、湿潤な気候が育む豊富な水資源など自然環境に恵まれ、別名「越山若水」とも呼ばれる福井県。福井の伝統工芸を継承し、さらなる高みへと導こうとする「7人のサムライ」たちの手仕事をご紹介します。



## 株主メモ

---

事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年9月に開催
配当金受領株主確定日	毎年6月30日 中間配当金を支払うときは毎年12月31日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料無料) (郵送先) 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所 ジャスダック市場
公告掲載新聞	日本経済新聞

---

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

住まいの飾り職人



アトムリビントック株式会社

〒110-8680 東京都台東区入谷1-27-4 TEL 03(3876)0600(大代表)  
ホームページ <https://www.atomlt.com/>



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。

